

《担当者名》薄井 明 usui@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

身近な対面的相互行為場面から出発して、直接には観察困難な社会的相互作用、集団と組織、そして全体社会の動向へと抽象度を上げて講義してゆく。

【学修目標】

具体的な事例に即して社会学的思考の基礎を身につけ、社会学の基礎的な概念を理解し、それらを関連する他の現象にも応用して分析できるようになる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	「社会学的思考法」とは何か、「社会」のいくつかの水準について考察する。	薄井
2	対面的相互行為(1)	対面的相互行為を「相互行為儀礼」の観点から考察する。事前のアンケート結果などから、「エチケット・マナー」の対人的意味作用について考察する。	薄井
3	対面的相互行為(2)	引き続き「相互行為儀礼」の観点から、対面的相互行為を「神聖な自己」「テリトリー」「関与」の鍵概念を用いて考察する。	薄井
4	社会的相互作用(1)	「行為の意図せざる結果」の典型例として「自己成就的予言」現象を紹介し、その特異性とメカニズムを、単なる「予測」との対比を通して考察する。	薄井
5	社会的相互作用(2)	引き続き、現代社会における「自己成就的予言」の事例を紹介する。また、それと対極の位置にある「自己破壊的予言」についても考察する。	薄井
6	社会的相互作用(3)	非行・犯罪に対する理論の1つである「レイベリングと逸脱行動」論の基本的な観点を、事例を交えて考察する。	薄井
7	社会的相互作用(4)	引き続き「レイベリングと逸脱行動」論について考察するが、特に「戦後日本の精神医療と精神障害者の社会復帰」をめぐる問題に焦点を当てる。	薄井
8	集団と組織(1)	個人に対する集団の影響の例として「準拠集団と相対的剥奪」について、「所属集団/準拠集団」の違い、「欲求の対人的構図」などを通して考察する。	薄井
9	集団と組織(2)	引き続き「準拠集団と相対的剥奪」を論じるが、特に「中途障害者」に焦点を当てる。また「アノミーと逸脱行動」論など犯罪社会学理論を紹介する。	薄井
10	家族と世帯(1)	家族の基本概念である「家族/世帯」の区別、世帯の動向、家族類型の変化などを考察する。	薄井
11	家族と世帯(2)	家族の動向のうち「結婚の動向」、特に「未婚化」を取り上げ、「少子化」との関連を考察する。	薄井
12	家族と世帯(3)	家族の動向のうち「離婚の動向」「離婚理由」を考察し、「DV」問題にも触れる。	薄井
13	現代社会(1)	「階級/階層」の違いを踏まえ、「社会階層と社会移動」の観点から近代以降の動向を考察する。	薄井
14	現代社会(2)	社会変動のトレンドのうち「職業と就業構造」の動向を踏まえて、「ポスト産業社会」「情報社会」の特質について考察する。	薄井
15	総括	これまでの学習事項を確認し、整理する。そして、残された課題を展望する。	薄井

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

中間課題10% + 定期試験90%

**【教科書】**

特に使用しない。必要な資料は配布する。

**【参考書】**

安川一編 『ゴフマン世界の再構成』 世界思想社 1991年

**【備考】**

この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「社会理論と社会システム」および介護福祉士国家試験受験資格取得のための「社会の理解」に該当する。

**【学修の準備】**

「相互行為儀礼」のテーマ終了後に中間課題を出すので、学習内容を復習すると同時に、「無礼・不作法」にまつわる現象を観察し記録・メモをとっておくこと。

事前に配付資料を渡す場合があるので、その際は必ず読んでおくこと。また、授業内の配布資料で割愛した箇所は授業後に必ず読んでおくこと。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP3,4